2021 年度から龍谷大学福祉フォーラムが変わります。

福祉フォーラムは、本学の社会福祉の学科が拡充されたことを機に1998年に創設されました。

当初は産官学の連携を中心においた方針でしたが、2006年度以降は地域(住民)やNPO、また社会福祉現場・専門職に焦点をおいた活動を展開してきました。共生、協働を理念とし、本学教職員、福祉実践現場の方、卒業生で企画運営しています。

2006年度にリニューアルしてからはや15年が経ちました。この間の社会情勢や社会福祉政策などの変化も踏まえて、「共生」「協働」をさらに進める事業展開をしていきたいと思います。

「福祉」という切り口は変わりませんが、そこから分野や専門を“越境”し、
“共創”して行けるような場づくりを目指します。

柱 1　事業のプロジェクト化

2021年度テーマは「お寺と福祉」!

● 毎年、一つのテーマを設定して、以下の流れで深めあっていきます。

オンライン講座	テーマに関する複数の講座（実践、施策など多様な側面から）をオンラインで開催
↓	
現 地 視 察	先進的な取り組みを行なっているところへ出向いて、 視野を広げ、考察を深める（希望者）
↓	
対 面 講 座	これから何ができそうか、何をやってみたいか、 みんなで新たな取り組みを検討していく（希望者）

※これに伴い、これまでの「共生塾」は廃止します。
※毎年開催していた「福祉フォーラム」は、何年かに１度の開催とします。

柱 2　専門セミナー

これまで同様に社会福祉実践に関わる専門職やスタッフの方を対象として開催します。

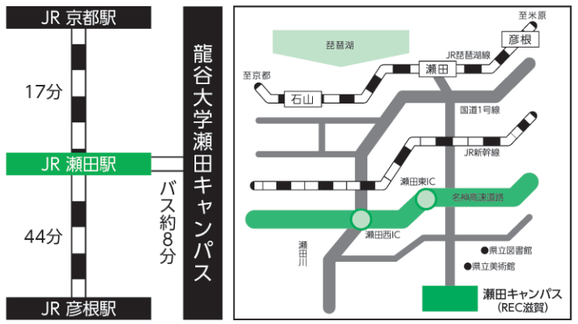
2021 年度の具体的な事業内容（講座のテーマ・内容や時期、受講料、申込方法など）については、4月以降にあらためてお知らせします。なお、今回のリニューアルに伴い、これまでの会員制度は廃止させていただきます。長い間、会員として支えてくださった皆さま、ありがとうございました。

お問い合わせ

龍谷大学福祉フォーラム事務局（REC 滋賀）

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5
Tel 077-544-7291　Fax 077-543-7771
E-mail　r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp
ホームページ　https://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/

JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車
帝産バス「龍谷大学」行き（約 8 分）
名神高速「瀬田西 IC」（大阪方面から）
「瀬田東 IC」（名古屋方面から）より
文化ゾーン方向へ車で約 5 分【駐車場有】
※駐車台数に限りがあります。



Vol.27　発行元：龍谷大学福祉フォーラム

福祉フォーラム通信

龍谷大学 RYUKOKU UNIVERSITY

2020年度の福祉フォーラムをふりかえって

福祉フォーラム会長　筒井 のり子（社会学部教授）

2019年12月に中国武漢で発生した新型コロナウイルスは、瞬く間に世界中に広がり、１年を経過した今も感染拡大が続いています。皆様の日々の暮らし、仕事、その他の活動に大きな影響を及ぼし、様々なご苦労を経験されていることと思います。

本学におきましても、2019年度の卒業式（2020年3月）および、2020年度の入学式が中止となりました。緊急事態宣言の発令（4月16日～5月25日）に伴い、前期のすべての授業はオンラインとなり、RECなどが主催する公開講座も中止を余儀なくされました。

本福祉フォーラム事業についても、2020年3月21日に龍谷大学響都ホール校友会館で開催予定だった「福祉フォーラム2019」（村木厚子さんの基調講演ほか）は300名以上の申込みをいただいていましたが、開催を断念せざるを得ませんでした。

2020年度事業は実施できるのか、実施するとしたらどのような形で行えるのか、福祉フォーラム会議（オンライン）を開き、学内外の委員の皆さまと検討しました。その結果、事業をすべて中止とするのではなく、可能なものはオンラインでの開催を模索することとしました。

まずは、前期中（8～9月）に「専門セミナー」をオンラインで開催してみることにしました。「専門セミナー」は福祉施設・機関、社会福祉協議会、NPOなどのスタッフを主な対象としています。福祉実践現場でも徐々にオンラインツールを活用した会議や研修が求められていることから、オンラインミーティングのファシリテーション力を高めたいというニーズに応えようということになりました。（詳細は次ページをご覧ください。）

さらに、3月開催予定だった「福祉フォーラム2019」への期待が大きかったことから、ほぼ同じ内容で「福祉フォーラム2020」としてオンライン開催にチャレンジすることとしました。幸い、基調講演をお願いしておりました村木厚子さんにもオンラインでのご登壇をご了解いただき、12月12日に開催することができました。（詳細は3ページをご覧ください。）

残念ながら「共生塾」は開催できませんでしたが、「専門セミナー」と「フォーラム」には、関西圏のみならず、関東など遠方からのご参加もあり、オンライン開催のプラス面も実感しました。コロナ禍がある程度収まったのちは、対面での交流ができる講座を大切にするとともに、オンライン方式も取り入れていく展開が考えられそうです。

このように2020年度は実施事業が少なく、また実施したもののオンライン開催のためご参加が難しかった方もおられます。また大学への入構も制限されるなど、福祉フォーラム会員の皆さまには大変申し訳ない結果となりました（お支払いいただいた会費は返却させていただきました）。次年度以降もコロナ禍の状況は予断を許さないこともあり、この機会に福祉フォーラムの会員制度についても検討することにいたしました。さらに、福祉フォーラムの事業についても、改めて見直す一年となりました。今後の方向につきましては、4ページで簡単にご紹介したいと思います。

この1年、福祉フォーラムの事業実施につきまして、本当にたくさんの方々に支えていただきました。心から感謝申し上げます。

＜文責：筒井 のり子＞

第24回専門セミナー

「社会福祉現場におけるオンラインミーティングのファシリテーション ～『これでいいのかな？』から『これでいこう！』へ～」の開催

新型コロナウイルス感染症拡大で、社会福祉の現場でもオンラインの会議や支援活動が始まっています。ところが、オンラインでの会議やグループワークの方法がわからず活動を中断したり、「これでいいのか？」と疑問を持ちつつ活動に取り組む関係者も少なくないようです。そのため第24回専門セミナーとしてオンライン（Zoomを使って）、コミュニケーションが活発になるオンライン会議実現の要点を学ぶ機会を2回に分けて企画しました。

基礎編「オンライン会議の進め方」

日　時：2020年8月29日㈯　13:00～15:00
講　師：坂本 清彦氏（龍谷大学社会学部准教授）

事前に登録した40人ほどの参加者に、ZoomやGoogleのオンラインツール（スライド、ドキュメント、Jamboard）の使用方法を、グループワークも交えて、実際に使ってもらいながら学んでもらいました。

ツールの便利さや可能性への高い評価も多かったものの、「使い方が難しかった」、「アクセスができず消化不良だった」との声もありました。セミナー講師として、十分に学べなかった方々に心よりお詫び申し上げ、準備について反省いたします。その一方で、インターネットの接続状況や参加者のツール習熟度の違いなど、現在のオンライン会議の課題についても参加者に認識いただけたことも1つの成果と考えています。

今回の経験を生かし、今後も社会福祉関係者に、オンライン会議の技法の進化をタイムリーに紹介できる機会を設けられればと考えています。

＜文責：坂本 清彦＞

専門編「オンライン事例検討会の進め方」

日　時：2020年9月12日㈯　13:00～15:30
コーディネーター：桐高 とよみ氏
（NPO法人甲賀湖南成年後見センターぱんじー所長）
講　師：青木 将幸氏（青木将幸ファシリテーター事務所代表）
山田 容氏（龍谷大学社会学部教授）

専門編となる二回目の講座では、前回講座で形成された基礎理解の上に社会福祉従事者の間で行われる事例検討会の開催・進行を念頭においたオンライン・ファシリテーションの方法を学ぶこととなりました。講師の青木氏からは「最も慣れていない人にあわせて場をつくる」という基本姿勢の提示が冒頭になされました。そして、丁寧に場がほぐされていきながら、個別相談の模擬会議へと進みました。この講座が進行する中で安心の風土が実際に耕されて、開かれたコミュニケーションが次第に交わされていく変化が印象的でした。参加者の方々からも「オンラインでもできることが多いですね」との声が聞かれました。最後にコメンテーターの山田氏からは情動的なメッセージをオンラインでどのように共有していくのか、コミュニケーション論の観点からの示唆が示されました。今回の連続講座のような場で試行錯誤を重ねることで、オンラインへの抵抗感や忌避感を和らげたり、円滑化の要諦を掴み取り、コロナ禍でも歩みが止まらない状態を目指していければと願っています。

＜文責：川中 大輔＞

（参加者の声）

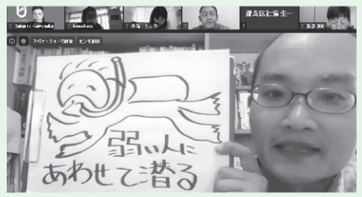
★オンライン会議で使用するツールを知り、会議を進めるイメージができました。

★オンラインを使用した会議や研修は一般的になり、使いこなせるスキルは必須になると思いますので、今後もこのような研修を期待します。

（参加者の声）

★ワークが多く色々な方との悩みを共有することができ、アイスブレイクの方法等オンライン会議を成功させる等も教えて頂き、期待以上の学びがありました。

★オンラインを使いながらなんとなく使用方法を学んでいる状況ですが、これらを体系的に言葉にして教えてもらえたので、大変有意義でした。



青木 将幸 氏

福祉フォーラム通信 Vol.27

福祉フォーラム2020

「社会には「かっこいい福祉」が必要だ ～withコロナ時代を見すえて～」

日　時：2020年12月12日㈯　13:30～16:30
第1部：13:40～14:40　基調講演「社会には『かっこいい福祉』が必要だ!」
講　師：村木 厚子氏
第2部：14:50～16:30　実践から考える
報告者：「子どもたちとつくるまちの子どもソーシャルワーク」
幸重 忠孝氏（NPO法人こどもソーシャルワークセンター理事長）
「ひとりの人を救う経験を社会の仕組みに」
長谷部 治氏（社会福祉法人神戸市兵庫区社会福祉協議会 地域支援課長（地域福祉ネットワーカー））
コーディネーター：山田 容氏（龍谷大学社会学部長）
コメンテーター：村木 厚子氏

2020年度の福祉フォーラム「社会には「かっこいい福祉」が必要だ～withコロナ時代を見すえて～」が2020年12月12日に開催されました。

第1部では、元厚生労働事務次官で社会学部客員教授の村木厚子氏による基調講演、第2部は、NPO法人子どもソーシャルワークセンター理事長の幸重忠孝氏、神戸市兵庫区社会福祉協議会地域支援課長の長谷部治氏による実践報告をいただきました。

村木さんは、刑事裁判の被告となった経験を交え、課題解決型と伴走型の支援それぞれの重要性について述べられました。さらに支援が適切な関わりになるための視点として、まず自立を多くの人に頼る力を持つこととしてとらえる意義、加えて複合する問題に対応できる制度改革、多職種や他分野がつながること、行政依存から市民自立型社会への移行の重要性などが指摘されました。

2部では、報告者お二人から、コロナ禍も含めた厳しい状況に置かれている人たちに対して当事者の視点から支援を構築していく実践が報告されました。制度の限界を越え、創造的な実践から多くの刺激をいただきました。

これらのお話から、「かっこいい福祉」とは、私たちがとらわれている「当たり前」を見直し、大事なことは何かと探りながら、それを具体化していく取り組みではないかと考えました。コロナ禍で弱さの顕在化と社会の分断が進む中、人をつなげなおしていく福祉の役割とその視点を得られた企画でした。

＜文責：山田 容＞

（参加者の声）

［第1部］

★かっこよくという言葉は勇気をもらえました。また、プロの福祉として、福祉の相談窓口はゆるくて抽象的であるのが理想との言葉は印象的でした。

★ご自身のつらい体験を交えながらも、しっかりとしたエビデンスを提示され、素晴らしいと思いました。

［第2部］

★「かっこいい福祉」に加えて、「楽しい」取り組みや、「面白い」取り組みを進めていくことが大事だというお話が勉強になりました。

★インフォーマルやフォーマルな実践の話を聞くことができ、データや統計でなく現場で個別を見る力を高めていきたいと思いました。

村木 厚子 氏

幸重 忠孝 氏

長谷部 治 氏